

令和元年度杉並区事務事業評価表(1)

(00141)

事務事業名称		まちの湯ふれあい入浴			款	04	項	01	目	02	事業	010	整理番号	155	
現担当課名		高齢者施策課			係名	いきがい活動支援係			連絡先電話番号	1164		昨年度整理番号	156		
上位施策No・施策名										13 高齢者の社会参加の支援		予算事業区分	既定事業		
事務事業の概要	事業開始	昭和49年度													
	平成30年度担当課名	高齢者施策課											事業評価区分	一般	
	対象	入浴事業は65歳以上の区民と付添者、健康事業は60歳以上の区民			根拠法令等	(1)	老人福祉法第4条第1項及び第13条第1項		(2)	杉並区ふれあい入浴実施要綱 杉並区まちの湯健康事業実施要綱					
	事業の目的・目標(対象をどのような状態にしたいのか)	ふれあい入浴を利用することにより、公衆浴場が、高齢者同士の親睦を深め、社会参加や交流を広げることができる憩いの場となるようにする。 まちの湯健康事業に高齢者が参加することを通じて、リフレッシュはもとより、健康増進が図られ、介護予防につながるようにする。			活動指標	指標名(1)		ふれあい入浴年間実施回数		指標説明		指標名(2)		まちの湯健康事業年間実施回数	
	活動内容(事務事業の内容、やり方、手段)	ふれあい入浴：毎週水曜日(一部火曜日)に各浴場の決められた時間帯(2時間)を低価格(ワンコイン)で開放する。 まちの湯健康事業：月1~2回、手ぬぐい体操などの健康事業を行う。実施後、参加者は低価格(ワンコイン)で入浴できる。本事業は、長寿応援ポイント対象事業である。			成果指標	指標名(1)		ふれあい入浴年間延べ利用者数		指標説明		指標名(2)		まちの湯健康事業年間延べ参加者数	
区分		単位	平成28年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度	平成30年度						
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画	対計画比(%)						
指標	活動指標(1)	1	回	1,150	1,100	1,008	1,037	994	1,026	95.9					
	活動指標(2)	2	回	277	322	262	275	253	260	92.0					
	成果指標(1)	3	人	74,845	78,000	65,038	72,800	61,549	69,000	84.5					
	成果指標(2)	4	人	4,503	5,000	4,130	4,500	3,890	4,300	86.4					
総事業費・コスト把握	事業費	5	千円	44,273	43,906	39,267	40,615	38,546	39,851	平成30年度 予算執行率(%)	94.9				
	(内)投資的経費等	6	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項					
	(内)委託費	7	千円	44,185	43,837	39,209	40,595	38,531	39,831						
	職員数	常勤職員数	8	人	0.30	0.30	0.30	0.30	0.00	0.00					
		再任用職員数	9	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.30	0.20					
		非常勤職員数	10	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00					
	人件費	常勤職員分	11	千円	2,569	2,569	2,577	2,577	0	0					
		再任用職員分	12	千円	0	0	0	0	1,330	887					
		非常勤職員分	13	千円	0	0	0	0	0	0					
	総事業費	14	千円	46,842	46,475	41,844	43,192	39,876	40,738						
	単位当たりコスト	15	円	40,732	42,250	41,512	41,651	40,117	39,706						
	財源	受益者負担分	16	千円	0	0	0	0	0	0					
		国からの補助金等	17	千円	0	0	0	0	0	0					
		都からの補助金等	18	千円	3,880	4,380	3,505	4,055	3,442	3,790					
その他の補助金等		19	千円	0	0	0	0	0	0						
特定財源計		20	千円	3,880	4,380	3,505	4,055	3,442	3,790						
差引：一般財源		21	千円	42,962	42,095	38,339	39,137	36,434	36,948						
受益者負担比率	22	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0							

令和元年度杉並区事務事業評価表（2）

				整理番号	155
		内 容	規模	単位	事業費（千円）
平成30年度の事業実施状況	(1) 主な取組	ふれあい入浴の実施	994	回	32,206
		まちの湯健康事業の実施	253	回	6,325
	(2) 事業実績	その他（チラシ作成ほか） 15 ふれあい入浴の実施浴場数は、平成22年度の31か所から少しずつ減少し、平成30年度は20か所でした。1回あたりの平均利用者数は、平成25年度から平成30年度まで、62.2人、64.4人、64.4人、65.1人、64.5人、61.9人です。 まちの湯健康事業の実施浴場数は、平成22年度の22か所から減少し、平成30年度は14か所でした。			
事業環境の変化と方向性	事業開始当初から現在までの変化	区内の公衆浴場数は、昭和49年度の111か所から減少し続けて、平成30年度は20か所になりました。			
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	ふれあい入浴については、「自宅にお風呂があっても、銭湯のほうが気持ちよい」「風呂の掃除が辛くなったので有り難い」「高齢者同士、互いに健康の確認をしあい、世間話ができる楽しい」「通院日等と重なり、指定の曜日・時間帯に行くことは難しい」などの声が寄せられています。 まちの湯健康事業は、「参加者が増え、体操に必要なスペースが確保できない」との声もあります。			
	今後（3～5年）の予測と方向性	ふれあい入浴は、実施浴場数の減少により、利用人数も減少しています。 まちの湯健康事業は、リピーターを含む参加者の増加により、安全な事業実施と参加の受付方法が困難になる傾向にあります。			
	評価と課題	まちの湯健康事業は、限られた利用者が複数か所の浴場に参加しています。安全な事業実施と新規参加を可能にするため、受付方法や事業日程を検討します。			
翌年度の方針	翌年度予算の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持		
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）		
	翌年度予算の方向性の理由・内容	ふれあい入浴の実施浴場の減少による影響を考慮しながら、高齢者の交流の場として事業を安全に実施するため、現状維持とします。 まちの湯健康事業の実施状況を把握し、利用者の声を聞きながら、リピーター以外の高齢者も利用しやすいように、周知方法について浴場組合と検討していきます。			

令和元年度杉並区事務事業評価表(1)

(00142)

事務事業名称		風呂っと杉並			款	04	項	01	目	02	事業	011	整理番号	156	
現担当課名		高齢者施策課			係名	いきがい活動支援係			連絡先電話番号	1164		昨年度整理番号	157		
上位施策No・施策名										13 高齢者の社会参加の支援		予算事業区分	既定事業		
事務事業の概要	事業開始	平成13年度													
	平成30年度担当課名	高齢者施策課			事業評価区分 一般										
	対象	60歳以上の区民 (平成26年度より、対象年齢を「50歳以上」から「60歳以上」に変更)			根拠法令等	(1)		杉並区風呂っと杉並事業補助金交付要綱							
						(2)		杉並区風呂っと杉並事業補助金補助基準							
	事業の目的・目標(対象をどのような状態にしたいのか)	公衆浴場を、健康増進や生きがいを目的とした60歳以上の高齢者の自主グループに開放することで、高齢者の活動・交流を推進していく。			活動指標	指標名(1)		風呂っと杉並事業を実施する浴場数							
					指標名(2)										
活動内容(事務事業の内容、やり方、手段)	区内の公衆浴場を60歳以上4名以上のグループに有料(利用料は浴場によって異なる)で開放し、自主的な活動や交流の拠点とする風呂っと杉並事業(杉並浴場組合自主事業)に要する経費について、運営費を助成する。			成果指標	指標名(1)		1所当たりの1か月の利用者数								
					指標名(2)		利用者数÷浴場数÷12か月								
区分		単位	平成28年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度	平成30年度						
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画	対計画比(%)						
指標	活動指標(1)	1 所	9	10	9	10	7	10	70.0						
	活動指標(2)	2													
	成果指標(1)	3 人	20.0	19	20.2	19	26.2	25	137.9						
	成果指標(2)	4													
総事業費・コスト把握	事業費	5 千円	3,413	3,545	3,432	3,545	3,431	3,545	平成30年度 予算執行率(%)	96.8					
	(内)投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	特記事項						
	(内)委託費	7 千円	0	0	0	0	0	0							
	職員数	常勤職員数	8 人	0.20	0.20	0.20	0.20	0.00	0.00						
		再任用職員数	9 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.20						
		非常勤職員数	10 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
	人件費	常勤職員分	11 千円	1,712	1,712	1,718	1,718	0	0						
		再任用職員分	12 千円	0	0	0	0	887	887						
		非常勤職員分	13 千円	0	0	0	0	0	0						
	総事業費(5+11+12+13)	14 千円	5,125	5,257	5,150	5,263	4,318	4,432							
	単位当たりコスト((14-6)÷1)	15 円	569,444	525,700	572,222	526,300	616,857	443,200							
	財源	受益者負担分	16 千円	0	0	0	0	0	0						
		国からの補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0						
		都からの補助金等	18 千円	1,760	1,772	1,773	1,772	1,772	1,772						
その他の補助金等		19 千円	0	0	0	0	0	0							
特定財源計(16+17+18+19)		20 千円	1,760	1,772	1,773	1,772	1,772	1,772							
差引:一般財源(14-20)		21 千円	3,365	3,485	3,377	3,491	2,546	2,660							
受益者負担比率(16÷14)	22 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0								

令和元年度杉並区事務事業評価表（２）

				整理番号	156
平成30年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		風呂っと杉並運営費補助	7	所	3,431
		その他()			
	(2) 事業実績	平成30年度は、7浴場で全341回風呂っと杉並事業を実施しました。各浴場で毎月1~4回の利用があり、内容は健康体操・手芸・マージャン等です。			
事業環境の変化と方向性	事業開始当初から現在までの変化	区内の公衆浴場数は、平成13年は56か所でしたが、平成30年は20か所です。事業実施浴場数は、平成13年度から9か所でしたが、平成30年度は7か所でした。			
	事業に対する意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	利用者には、「近くのお風呂屋さんで、気軽に楽しめる。」と喜ばれています。			
	今後(3~5年)の予測と方向性	利用団体の固定化が続き、新規団体の受け入れが難しくなっているため、新規団体を受け入れるための事業のあり方を見直す必要性が高まっています。			
	評価と課題	活動の場を求める高齢者のグループは多く、公衆浴場を趣味活動や集会等に利用できることを広く周知する必要があるため、浴場組合とともに、効果的な周知方法を検討します。			
翌年度の方針	翌年度予算の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	現状維持		
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し(改善)		
	翌年度予算の方向性の理由・内容	事業の目的を踏まえて、公衆浴場開放の実態を浴場組合と共有し、新規団体も利用できるように、効果的な周知方法を浴場組合と検討します。			

令和元年度杉並区事務事業評価表(1)

(00143)

事務事業名称			いきいきクラブの支援				款	04	項	01	目	02	事業	012	整理番号	157
現担当課名			高齢者施策課				係名			いきがい活動支援係			連絡先電話番号	1165	昨年度整理番号	158
上位施策No・施策名											13 高齢者の社会参加の支援		予算事業区分	既定事業		
事務事業の概要	事業開始	昭和33年度	実行計画事業			目標	04	施策	13	計画事業		01				
	平成30年度担当課名	高齢者施策課										事業評価区分	一般			
	対象	杉並区いきいきクラブ 杉並区いきいきクラブ連合会				根拠法令等	(1)		老人福祉法第4条、第13条第2項							
							(2)		杉並区いきいきクラブ助成要綱							
	事業の目的・目標(対象をどのような状態にしたいのか)	クラブ会員一人ひとりが社会貢献活動やいきがい活動を積極的に行い、高齢期をいきいき元気に生活できるようにする。 いきいきクラブ及びいきいきクラブ連合会の活動の活性化を推進し、会員増加を支援する。				活動指標	指標名(1)		いきいきクラブ加入者数							
						指標説明										
						指標名(2)										
						指標説明										
活動内容(事務事業の内容、やり方、手段)	いきいきクラブが実施する社会奉仕活動・友愛活動・健康増進活動・生きがい活動等のクラブ活動に対して、各クラブの会員数に応じて、助成する。 いきいきクラブ連合会及び地区連合会が実施する福祉大会・スポーツ大会・健康づくり教室等の事業に対して、助成する。				成果指標	指標名(1)		いきいきクラブ加入率								
						指標説明		いきいきクラブ加入者数÷60歳以上の人口(当該年度4月1日現在)								
						指標名(2)		1か月の社会奉仕活動回数(クラブ当たり)								
						指標説明		社会奉仕活動回数÷全クラブ数÷12月								
区分		単位	平成28年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度	平成30年度							
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画	対計画比(%)							
指標	活動指標(1)	1	人	5,500	5,500	5,376	5,400	5,356	5,200	99.2						
	活動指標(2)	2														
	成果指標(1)	3	%	3.8	3.9	3.7	3.9	3.6	3.6	92.3						
	成果指標(2)	4	回	11.3	12	11.7	12	10.8	12	90.0						
総事業費・コスト把握	事業費	5	千円	23,175	24,385	22,802	24,026	22,822	23,988	平成30年度 予算執行率(%)	95.0					
	(内)投資的経費等	6	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項						
	(内)委託費	7	千円	20	20	20	19	19	20							
	職員数	常勤職員数	8	人	1.00	1.50	1.50	1.00	1.10	0.60						
		再任用職員数	9	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.40						
		非常勤職員数	10	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
	人件費	常勤職員分	11	千円	8,562	12,843	12,887	8,591	9,269	5,056						
		再任用職員分	12	千円	0	0	0	0	0	1,774						
		非常勤職員分	13	千円	0	0	0	0	0	0						
	総事業費	14	千円	31,737	37,228	35,689	32,617	32,091	30,818							
	単位当たりコスト	15	円	5,770	6,769	6,639	6,040	5,992	5,927							
	財源	受益者負担分	16	千円	0	0	0	0	0	0						
		国からの補助金等	17	千円	0	0	0	0	0	0						
		都からの補助金等	18	千円	2,524	2,635	2,451	2,602	2,447	2,631						
その他の補助金等		19	千円	0	0	0	0	0	0							
特定財源計		20	千円	2,524	2,635	2,451	2,602	2,447	2,631							
差引:一般財源		21	千円	29,213	34,593	33,238	30,015	29,644	28,187							
受益者負担比率	22	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0								

令和元年度杉並区事務事業評価表（2）

				整理番号	157	
平成30年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容		規模	単位	事業費（千円）
		いきいきクラブ助成（いきいきクラブ連合会 1・各いきいきクラブ 67）		68	団体	22,301
福祉大会・都市交流等事業		1	団体	500		
その他（旅費の支給、連絡用郵券の購入ほか）				21		
(2) 事業実績	<p>いきいきクラブ（67クラブ）が、社会奉仕活動や友愛活動（8,709回）、健康増進活動（8,371回）、いきがいを高める活動（8,686回）を実施しました。</p> <p>いきいきクラブ連合会及び地区連合会で、福祉大会8回、スポーツ大会7回、健康づくり事業9回、東吾妻町とのグランドゴルフ大会による交流懇談会等を実施しました。</p>					
事業環境の変化と方向性	事業開始当初から現在までの変化	<p>・昭和33年度、3クラブで開始し、平成5年度に会員数のピーク（12,071人）、平成10年度にクラブ数のピーク（100クラブ）となりました。</p> <p>・平成30年度：66クラブ、会員数5,356人</p> <p>高齢者人口は年々増加していますが、新規加入者より退会者が多くクラブ数及び会員数は年々減少しています。</p>				
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	<p>会員からは、「生きがい活動を楽しんでいる。」という声や、「健康づくり教室で軽体操や転倒予防対策に取り組み、健康に過ごすための参考になった。」という意見などがあります。一方、会員の高齢化がすすみ、「活動が一部の会員だけになってしまい残念だ。」という話も聞かれます。また、高齢の役員からは、「役員の高齢化が進み、区やいきいきクラブ連合会への提出書類の作成が困難になってきている。また、後継者がなく困っている。」といった声もあります。</p>				
	今後（3～5年）の予測と方向性	<p>高齢者が増加する中で、高齢者が、地域の中で様々な活動を通して生きがいを感じ、地域とのつながりや高齢者同士の支えあいを実感することで充実した日々を送り、地域包括ケアを実現するために、地域の互助組織であるいきいきクラブの存在は必要不可欠です。</p> <p>会員の減少や高齢化は進んでいますが、長年続いている活動を助け合いながら継続しているクラブや、仲間づくりのため新たな活動を始めるクラブを今後も支援します。</p>				
評価と課題	<p>いきいきクラブは、社会奉仕活動や健康増進活動、いきがい活動を通じて、高齢者の社会参加に一定の成果をあげてきました。しかし、就業卒業年齢が上昇していることや、高齢者にとっての居場所が老人クラブ以外にも多種多様な選択肢が広がっている現在、老人クラブ加入者の減少は全国的な傾向となっています。</p> <p>会員減少を食い止めるため、単に会員同士のいきがい活動だけでなく、ボランティアや友愛活動など地域の支えあいにつながる活動や、会員以外も参加できる行事を企画し、いきいきクラブの魅力を地域の高齢者に発信するよう支援します。</p>					
翌年度の方針	翌年度予算の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持			
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）			
翌年度の方針	翌年度予算の方向性の理由・内容	<p>高齢者が、地域の中で様々な活動を通して生きがいを感じ、地域とのつながりや高齢者同士の支えあいを実感することで充実した日々を送り、地域包括ケアを実現するために、地域の互助組織であるいきいきクラブの存在は必要不可欠です。</p> <p>会員の減少や高齢化は進んでいますが、長年続いている活動を助け合いながら継続しているクラブや、仲間づくりのため新たな活動を始めるクラブを今後も支援していきます。</p> <p>また、後継者が見つからないまま役員が高齢化しているクラブの中で、大きな負担となっている会計処理や区への提出物の作成について適切な指導や助言を行うことにより、クラブが廃止とならないよう、支援していきます。</p>				

令和元年度杉並区事務事業評価表（２）

		整理番号 158			
平成30年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
		シルバー人材センター運営助成			
	(2) 事業実績	その他（負担金の支出ほか） 50 事業実績は、実契約件数7,373件、事業収入885,342千円です。実契約件数の内訳は、有料自転車駐車場管理等の公共事業124件、民間企業の事業689件、独自事業35件、一般家庭の事業6,525件です。地域貢献活動としては、無償のボランティアで行う「シルバー孫の手」事業は、99件行いました。また、平成30年10月1日から労働者派遣事業による就業を始めました。			
事業環境の変化と方向性	事業開始当初から現在までの変化	区の総人口に占める60歳以上の区民の割合は、昭和54年は8.6%で、平成30年は25.8%です。シルバー人材センターの会員数は、昭和54年度末は1,280人で、平成30年度末は2,729人です。			
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	会員登録したがなかなか就業に結びつかないという会員の声もあり、未就業会員意向調査を行い、お客様満足度調査及び公共施設利用者アンケートを基に、センター運営の課題を各委員会で検討し事業の充実・改善に努めています。			
	今後（3～5年）の予測と方向性	定年後の継続雇用の定着で、会員数の減少や会員の高齢化傾向にあり、今後一層のシルバー人材センター入会のPR活動に努めるとともに、安全面の強化も重要となります。また、令和元年度に、計画の期間を5年間とする中期計画を策定し、これを指針としてセンターを運営していきます。			
	評価と課題	就業機会の拡大を図るため開始した労働者派遣事業ですが、残念ながら実績として1件のみとなりました。今後は会員向け派遣事業説明会の充実や就業开拓員を2名雇用することで、新たな就業先を開拓し、会員が就業の選択を広げられるよう、一層事業のPRに努めていきます。新規会員の勧誘だけでなく、会員登録しても就業に結びついていない人への働きかけや社会貢献活動の事業である「シルバー孫の手」も、年々実施件数が減ってきているので、事業PRを積極的に行う一方、社会変化に応じた需要の少ない事業の見直しを行うなど、スクラップ・アンド・ビルドの視点で取り組んでいきます。			
翌年度の方針	翌年度予算の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持		
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）		
	翌年度予算の方向性の理由・内容	定年後継続雇用の拡大により、シルバー人材センターは会員数の減少と会員の高齢化傾向にありますが、超高齢化社会を見据え、就業の機会や生きがいの場を提供する重要な担い手として、その役割を果たすとともに、センターの運営には、社会・経済変化に応じた対応が求められてきています。今後、令和元年度に中期計画が策定され、それを基にセンターの置かれている状況を分析し、そこから見えてくる課題を解決するため、効率的なセンターの運営に努め、会員一人ひとりが就業や地域貢献活動を通じて、生きがいを持てる魅力あるセンターづくりに取り組んでいきます。			

令和元年度杉並区事務事業評価表（１）

（ 00145 ）

事務事業名称		高齢者いきがい活動支援				款	04	項	01	目	02	事業	014	整理番号	159	
現担当課名		高齢者施策課		係名		いきがい活動支援係		連絡先電話番号		1164		昨年度整理番号		160		
上位施策No・施策名											13 高齢者の社会参加の支援		予算事業区分		既定事業	
事務事業の概要	事業開始		昭和58年度		実行計画事業		目標 04		施策 13		計画事業 01		主要事業（区政経営報告書掲載事業）			
	平成30年度担当課名		高齢者施策課		事業評価区分								一般			
	対象				概ね60歳以上の区民 ただし、高齢者の就業・社会参加支援は、概ね55歳以上の在住・在勤者		根拠法令等		(1)		老人福祉法第4条					
									(2)		杉並区立高齢者活動支援センター及びゆうゆう館設置条例					
	事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか）				高齢者が生きがいを高める活動・学習・就業の場を利用して、地域の中で生涯現役で健康に暮らしていけるようにする。		活動指標		指標名（ 1 ）		支援対象の地域活動団体数					
								指標説明		高齢者の就職成立件数						
活動内容（事務事業の内容、やり方、手段）				地域で役に立ちたい高齢者を社会貢献スタッフとして登録、講師活動を実施する。杉の樹大学を法人に委託し各種講座の企画運営を実施する。高齢者の就業・社会参加支援をNPO法人に委託し実施する。		成果指標		指標名（ 1 ）		杉並区後援の地域貢献事業の開催回数						
								指標説明		社会貢献スタッフ年間延べ派遣人数						
								指標名（ 2 ）								
								指標説明								
区分		単位	平成28年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度	平成30年度							
			実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	対計画比(%)							
指標	活動指標（ 1 ）	1	団体	10	8	6	6	6	100.0							
	活動指標（ 2 ）	2	回	20	25	14	25	9	36.0							
	成果指標（ 1 ）	3	回	130	120	85	85	108	127.1							
	成果指標（ 2 ）	4	人	1,145	1,200	1,149	1,200	1,132	94.3							
総事業費・コスト把握	事業費	5	千円	6,457	12,051	9,884	10,562	9,999	10,493	平成30年度 予算執行率(%)	94.7					
	(内) 投資的経費等	6	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項						
	(内) 委託費	7	千円	6,427	11,994	9,851	10,413	9,965	10,457	平成29年度に事業を開始した元気高齢者地域活躍推進事業の事業計画縮小による減						
	職員数	常勤職員数	8	人	1.10	1.30	1.55	0.80	0.70	0.70						
		再任用職員数	9	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.24	0.20						
		非常勤職員数	10	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
	人件費	常勤職員分	11	千円	9,418	11,131	13,316	6,873	5,898	5,898						
		再任用職員分	12	千円	0	0	0	0	1,064	887						
		非常勤職員分	13	千円	0	0	0	0	0	0						
	総事業費 (5+11+12+13)	14	千円	15,875	23,182	23,200	17,435	16,961	17,278							
	単位当たりコスト (14-6)÷1	15	円	1,587,500	2,897,750	3,866,667	2,905,833	2,826,833	2,879,667							
	財源	受益者負担分	16	千円	0	0	0	0	0	0						
		国からの補助金等	17	千円	0	0	0	0	0	0						
		都からの補助金等	18	千円	3,243	8,807	6,664	7,167	7,318	7,836						
その他の補助金等		19	千円	0	0	0	0	0	0							
特定財源計 (16+17+18+19)		20	千円	3,243	8,807	6,664	7,167	7,318	7,836							
差引：一般財源 (14-20)		21	千円	12,632	14,375	16,536	10,268	9,643	9,442							
受益者負担比率 (16÷14)	22	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0							

令和元年度杉並区事務事業評価表（２）

				整理番号	159
		内 容	規模	単位	事業費（千円）
平成30年度の事業実施状況	(1) 主な取組	杉の樹大学運営委託	1	所	3,600
		高齢者の就業・社会参加支援委託	1	所	2,819
		元気高齢者地域活躍推進事業	1	所	3,486
	(2) 事業実績	その他（研修会講師謝礼ほか）			94
		<p>杉の樹大学事業は、本科年間30回（受講生27名）、公開講座3回（延べ204名）を実施しました。高齢者の就業・社会参加支援事業は、個人向け相談を21回（延べ47名）実施、職業能力アップ講座を32回（延べ382名参加）開催しました。元気高齢者地域活躍推進事業は、就業体験セミナーを開催し、受講者は21名でした。また、ゆつゆ館の自主グループ・協働事業、まちの湯健康事業等で社会貢献スタッフの講師活動（主に手ぬぐい体操、健康エアロビクス）を継続実施しました。</p>			
事業環境の変化と方向性	事業開始当初から現在までの変化	<p>区の高齢化率（65歳以上の総人口に占める割合）は、昭和50年7.4%、平成元年11.4%、平成20年18.7%、平成24年19.8%、平成30年21%と増加しています。杉の樹大学事業は、昭和59年に開始し、平成15年からはNPO法人に事業委託を開始しました。平成24年度からは公募型プロポーザル方式により事業者を選定の上、運営を委託しています。平成30年度のプロポーザルにより、新たな事業者が選定されました。また、平成29年度からは、元気高齢者地域活躍推進事業を実施しました。</p>			
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	<p>杉の樹大学事業では、「新しい友達ができたい」「学んだ知識を地域の活動に活かしたい」「何度も参加したい」などの感想が寄せられています。社会貢献スタッフの講師活動（主にてぬぐい体操、健康エアロビクス）は、需要が高く、活動先の参加者からも好評です。元気高齢者地域活躍推進事業では、福祉施設への就業に向けた実地研修、就労体験、個別相談を行い、就業に結びついた受講者からは、高齢でも就業ができて、いきがいを感じられると好評です。</p>			
	今後（3～5年）の予測と方向性	<p>多くの社会貢献意欲のある高齢者を支援するため、杉の樹大学事業を通して、地域活動に必要な学習・仲間づくりの場を提供していきます。国は年金の受給年齢の引き上げについて検討を始め、ますます、高齢者の就業意欲は強まる傾向にあるため、年齢に応じた無理のないシニアの働き方を模索していきます。</p>			
評価と課題		<p>杉の樹大学事業では、本科の受講者数が減少しています。そのため、これから地域活動をしてみたいと思っている方が、興味を持てる講座を検討し、受講者数の増を図ります。令和元年度は参加しやすいように受講回数を見直し、本科を年間3期に分けて各期8回ずつとします。元気高齢者地域活躍推進事業では、介護施設への就業アンケートを行い、就業先のマッチングを強化した結果、平成30年度は受講者の就業が半数を超え、シニアの就業を通じた社会参加に貢献することができました。今後は更に就業率を高めるため、マッチングを強化する方法について検討します。また、東京しごと財団と共催した就業支援イベントでは、参加者の適正にあった仕事を紹介するなど、シニアの活動の場を広く紹介する取組を実施し、シニアの就労を支援しました。</p>			
翌年度の方針	翌年度予算の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持		
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）		
翌年度予算の方向性の理由・内容		<p>杉の樹大学事業は、令和元年度から新しい委託事業者になりました。受講者が興味を持ち参加しやすい講座内容を実施するように働きかけていきます。平成29年度から実施している元気高齢者地域活躍推進事業については、東京都の元気高齢者地域活躍推進事業を基に実施してきましたが、令和2年度以降は、補助金対象外になる経費が生じるので継続困難となり、事業の見直しを迫られています。そのため、既存の事業であるシニアの就業・起業・地域活動応援事業と共に見直しを検討していきます。</p>			

令和元年度杉並区事務事業評価表(1)

(00162)

事務事業名称		ゆうゆう館の運営			款	04	項	01	目	02	事業	033	整理番号	174	
現担当課名		高齢者施策課		係名	施設担当係			連絡先電話番号	1153		昨年度整理番号	176			
上位施策No・施策名										13 高齢者の社会参加の支援		予算事業区分	既定事業		
事務事業の概要	事業開始	昭和38年度													
	平成30年度担当課名	高齢者施策課													
	対象	60歳以上の区民及びゆうゆう館協働事業参加者、NPO法人等の協働事業実施団体			根拠法令等	(1)		杉並区立高齢者活動支援センター及びゆうゆう館条例							
						(2)		老人福祉法							
	事業の目的・目標(対象をどのような状態にしたいのか)	NPO法人等との協働により、効率的かつ魅力あるゆうゆう館の管理運営を行う。			活動指標	指標名(1)		協働事業実施回数							
					指標説明		協働事業年間参加者数								
	活動内容(事務事業の内容、やり方、手段)			指標名(2)	指標説明										
	ゆうゆう館の受付業務及び館清掃等をNPO法人等に委託する。効率的かつ魅力あるゆうゆう館として運営していくため、評価委員会を開催し、ゆうゆう館協働事業実施団体に対する評価を行う。新たにゆうゆう館の協働事業実施団体を選定するため、選定委員会を開催する。ゆうゆう館の円滑な運営のため、運営団体と意見交換を行う。			成果指標	指標名(1)		ゆうゆう館部屋稼働率								
					指標説明		使用した回数÷使用可能枠数								
					指標名(2)		協働事業参加者の満足度								
					指標説明		(大いに満足+満足)÷参加者数 利用者アンケート結果より								
区分		単位	平成28年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度	平成30年度						
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画	対計画比(%)						
指標	活動指標(1)	1	回	10,921	10,500	10,833	10,500	10,801	10,500	102.9					
	活動指標(2)	2	人	118,381	117,000	120,471	118,000	117,804	117,000	99.8					
	成果指標(1)	3	%	50.0	50	49.6	50	51.6	50	103.2					
	成果指標(2)	4	%	95.4	90	97.5	90	97.1	90	107.9					
総事業費・コスト把握	事業費	5	千円	262,013	263,203	260,870	267,502	265,583	274,978	平成30年度予算執行率(%)	99.3				
	(内)投資的経費等	6	千円	4,077	3,664	3,225	4,528	3,295	3,686	特記事項					
	(内)委託費	7	千円	257,086	258,546	256,998	261,333	261,113	270,239						
	職員数	常勤職員数	8	人	2.02	1.68	2.01	2.00	2.42	2.00					
		再任用職員数	9	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00					
		非常勤職員数	10	人	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80					
	人件費	常勤職員分	11	千円	17,295	14,384	17,268	17,182	20,391	16,852					
		再任用職員分	12	千円	0	0	0	0	0	0					
		非常勤職員分	13	千円	2,377	2,377	2,355	2,355	2,471	2,471					
	総事業費(5+11+12+13)	14	千円	281,685	279,964	280,493	287,039	288,445	294,301						
	単位当たりコスト((14-6)÷1)	15	円	25,420	26,314	25,595	26,906	26,400	27,678						
	財源	受益者負担分	16	千円	0	0	0	0	0	0					
		国からの補助金等	17	千円	0	0	0	0	0	0					
		都からの補助金等	18	千円	2,698	2,291	2,291	3,952	3,952	3,169					
その他の補助金等		19	千円	0	0	0	0	0	0						
特定財源計(16+17+18+19)		20	千円	2,698	2,291	2,291	3,952	3,952	3,169						
差引:一般財源(14-20)		21	千円	278,987	277,673	278,202	283,087	284,493	291,132						
受益者負担比率(16÷14)	22	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0							

令和元年度杉並区事務事業評価表（2）

				整理番号	174	
平成30年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容		規模	単位	事業費（千円）
		ゆうゆう館受付等業務委託（うち協働事業館32館）		32	館	261,085
		協働事業館支援事業の実施（備品・消耗品購入）		8	館	4,327
		ゆうゆう館評価委員会及び選定委員会開催		5	回	171
	その他（ ）					
(2) 事業実績	<p>32館で年間10,801回の協働事業が行われ、延べ11万7千人を超える参加者がありました。ゆうゆう館を利用した人数は442,872人でした。</p> <p>ゆうゆう館協働事業実施団体の評価は、平成28年度に開始した4団体を対象に、評価委員会を2回開催して実施しました。</p> <p>また、平成30年度に協定期間が満了となる5館を対象に、協働事業実施団体を募集したところ、6団体から応募があり、選定委員会を3回開催して5団体を選定しました。</p>					
事業環境の変化と方向性	事業開始当初から現在までの変化	<p>受付等業務委託は、平成18年度の時点では16館（うち協働事業館9館）で行っていました。平成23年度から区内32か所あるゆうゆう館の全てが、受付等業務委託館及び協働事業実施館となりました。</p>				
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	<p>館の管理運営は順調に行われており、受託団体の接客姿勢についてもアンケートのほか、直接、利用者からも満足との評価を得ています。また、利用者のニーズに合わせた内容を取り入れるなど協働事業を幅広く行うことにより、利用者数は増加傾向にあります。その一方で、従来からゆうゆう館を利用していた高齢者団体等からは、希望する日時での部屋の確保ができなくなり、自主活動がやりづらくなったなどの声も寄せられています。</p>				
	今後（3～5年）の予測と方向性	<p>高齢人口の増加に伴い、高齢者の活動の場としてのゆうゆう館の必要性は、今後も大きくなると考えられます。高齢者のニーズに対応した館運営を行うために、区は評価及び選定を通して、事業者への指導や支援を行います。</p> <p>杉並区立施設再編整備計画では、ゆうゆう館は、多世代が身近な地域で集うことができる地域コミュニティ施設へと段階的に再編整備されることとなっています。再編後も高齢者が気軽に集うことができるよう、ゆうゆう館の機能を明確にした上で、役割を継承していく必要があります。</p>				
評価と課題	<p>ゆうゆう館は高齢者の社会参加や交流、いきがい活動の拠点となっています。今後も、地域に根差した施設として、高齢者の満足度がさらに上がるよう運営を行うことが課題です。</p> <p>また、杉並区立施設再編整備計画では、地域コミュニティ施設への転用・再編整備を進めることとなっており、令和2年度にはゆうゆう阿佐谷館、馬橋館、阿佐谷北館の3館が地域コミュニティ施設に再編整備されます。令和元年度は、阿佐谷館、馬橋館についてはモデル的な取組を継続し、阿佐谷北館は新たな地域コミュニティ施設が再編整備されるまで、代替場所となる東原中学校内で事業の一部を継続して実施します。再編整備にあたり、継承するゆうゆう館の機能と役割について十分検討し、関係課と協力しながら適切な運営方法を確立します。</p>					
翌年度の方針	翌年度予算の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持			
	II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）				
翌年度予算の方向性の理由・内容	<p>平成30年度に策定された杉並区立施設再編整備計画第二次実施プランでは、これまでのゆうゆう館の役割・機能を地域コミュニティ施設に継承するとともに、世代を超えた交流や地域のつながりを作る場の確保が必要だとしています。</p> <p>令和元年度は、令和2年度に地域コミュニティ施設へ転用・機能継承することになった阿佐谷館、馬橋館についてはモデルとなる取組の継続実施を、施設を解体する阿佐谷北館は、代替場所で事業の一部を継続して実施します。</p> <p>また、転用等の対象となっていない館についても、高齢者や地域のニーズに沿った運営ができるように、ゆうゆう館の機能と役割を明確にして運営していきます。</p>					

令和元年度杉並区事務事業評価表(1)

(00163)

事務事業名称		三療サービス				款	04	項	01	目	02	事業	034	整理番号	175	
現担当課名		高齢者施策課				係名	いきがい活動支援係				連絡先電話番号	1164	昨年度整理番号	177		
上位施策No・施策名											13	高齢者の社会参加の支援			予算事業区分	既定事業
事務事業の概要	事業開始	昭和48年度														
	平成30年度担当課名	高齢者施策課				事業評価区分 一般										
	対象	60歳以上の区民				根拠法令等	(1)		杉並区三療サービス事業実施要綱							
							(2)									
	事業の目的・目標(対象をどのような状態にしたいのか)	マッサージやはりによる施術を受けることにより、高齢者の身体機能の維持・介護予防の促進を図り、いきいきと暮らせるようにする。				活動指標	指標名(1)		三療サービス利用者数							
						指標説明		ゆうゆう館でのサービス利用人数								
						指標名(2)										
						指標説明										
活動内容(事務事業の内容、やり方、手段)	ゆうゆう館で行うマッサージ・はり施術を「杉並区高齢者三療サービス連絡協議会」に委託して実施する。高齢者活動支援センターでは、指定管理者が同協議会に再委託して実施する。				成果指標	指標名(1)		利用率								
						指標説明		利用者数÷(当該年度4月1日付け)60歳以上の区民								
						指標名(2)										
						指標説明										
区分		単位	平成28年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度	平成30年度	対計画比(%)						
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画								
指標	活動指標(1)	1 人	5,284	5,760	5,246	5,760	5,128	5,760	89.0							
	活動指標(2)	2														
	成果指標(1)	3 %	3.7	4.0	3.6	3.9	3.5	3.9	89.7							
	成果指標(2)	4														
総事業費・コスト把握	事業費	5 千円	12,109	12,869	11,848	12,593	12,249	12,030	平成30年度 予算執行率(%)	97.3						
	(内)投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	特記事項							
	(内)委託費	7 千円	11,824	12,496	11,532	12,229	11,901	11,666								
	職員数	常勤職員数	8 人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10							
		再任用職員数	9 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00							
		非常勤職員数	10 人	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90							
	人件費	常勤職員分	11 千円	856	856	859	859	843	843							
		再任用職員分	12 千円	0	0	0	0	0	0							
		非常勤職員分	13 千円	2,674	2,674	2,650	2,650	2,780	2,780							
	総事業費	14 千円	15,639	16,399	15,357	16,102	15,872	15,653								
	単位当たりコスト	15 円	2,960	2,847	2,927	2,795	3,095	2,718								
	財源	受益者負担分	16 千円	0	0	0	0	0	0							
		国からの補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0							
		都からの補助金等	18 千円	6,367	6,433	6,119	6,296	6,296	6,265							
その他の補助金等		19 千円	0	0	0	0	0	0								
特定財源計		20 千円	6,367	6,433	6,119	6,296	6,296	6,265								
差引:一般財源		21 千円	9,272	9,966	9,238	9,806	9,576	9,388								
受益者負担比率	22 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									

令和元年度杉並区事務事業評価表（２）

				整理番号	175
平成30年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
		三療サービス（ゆうゆう館）事業委託	5,128	人	10,488
		その他（シーツ、洗濯料ほか）			1,761
(2) 事業実績	<p>ゆうゆう館32館を利用し、例年月40回、年間480回実施しています。平成30年度は、計画通り実施しました。</p> <p>実績数は5,128人。内訳は女性が3,806人（74.2%）男性が1,322人（25.8%）です。はりマッサージは希望制ですが、内訳はマッサージ希望が4,357人（85%）はり希望が771人（15%）です。</p>				
事業環境の変化と方向性	事業開始当初から現在までの変化	<p>ゆうゆう館における利用数 平成30年度は5,128人、過去5年ほぼ横ばい傾向で推移しています。</p> <p>高齢者活動支援センターにおける利用数 平成30年度は3,548人、過去5年同水準の利用者がいます。高齢者活動支援センターは平成24年5月以降は指定管理者制度に移行し、事業予算は指定管理料から支出することとなりました。平成29年度にはプロポーザルにより同一の指定管理事業者に変更されました。</p>			
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	<p>現在、ゆうゆう館で受けられる施術は原則月1回です。そのため、利用者からは利用回数を増やしてほしいとの要望があります。一方、原則を逸脱し、複数回の利用者も存在します。</p> <p>また、事業と施術はおおむね好評ですが、施術者の接遇に関する苦情が年間数件寄せられるため、委託事業者である三療サービス連絡協議会内での情報の共有や周知の徹底を働きかけます。</p>			
	今後（3～5年）の予測と方向性	<p>区の施設整備再編計画に基くゆうゆう館の地域コミュニティ施設への転換により、三療サービスのあり方を検討する可能性があります。</p> <p>利用者の固定化の傾向がみられますが、より多くの方に利用していただくため、ホームページやゆうゆう館での周知が求められます。</p>			
評価と課題	<p>利用者の高齢化が一層進んでいるため、ゆうゆう館運営団体と連携して、利用者の健康管理面に注視していきます。</p> <p>また、施術者の技術力と接遇力の向上を支援していくために、利用者の声を反映させ、三療サービス連絡協議会との意見交換を積極的に行っていきます。</p> <p>更に、ゆうゆう館運営団体の協力も得ながら、三療サービスを介護予防につなげていくため具体的な方策について検討していきます。</p>				
翌年度の方針	翌年度予算の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持		
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）		
	翌年度予算の方向性の理由・内容	<p>介護予防事業につなげていく取組として引き続き実施していきます。事業予算も現状維持ですが、区の施設整備再編計画に基くゆうゆう館の地域コミュニティ施設への転換により、三療サービスのあり方や、利用者負担額等を見直す可能性があります。</p>			

令和元年度杉並区事務事業評価表(1)

(00164)

事務事業名称 敬老事業			款 04	項 01	目 02	事業 035	整理番号 176		
現担当課名 高齢者施策課		係名 いきがい活動支援係			連絡先電話番号 1165	昨年度整理番号 178			
上位施策No・施策名 13 高齢者の社会参加の支援						予算事業区分 既定事業			
事務事業の概要	事業開始	昭和25年度							
	平成30年度担当課名	高齢者施策課			事業評価区分	一般			
	対象	敬老会 75歳以上の高齢者 祝い品 75歳(28年度まで)、81歳、90歳(29年度より)、100歳以上の高齢者		根拠法令等 (1) (2)	老人福祉法第4条、5条、第13条第1項 杉並区敬老事業実施要綱				
	事業の目的・目標(対象をどのような状態にしたいのか)	敬老事業が対象者の日常生活に、新たな価値や意味を見出すきっかけとなり、健やかに充実した後期高齢期を過ごし、意欲や活力が高められるようにする。		活動指標 指標名(1) 指標説明 指標名(2)	敬老会参加者数 祝い品贈呈者数(81歳、90歳、100歳以上)				
活動内容(事務事業の内容、やり方、手段)	高齢者の長寿を祝うため、式典及び演芸会を開催する。 対象者に敬老祝い品(81歳、90歳)、長寿祝い品(100歳以上)を贈呈(戸別配送)する。 在宅で生活している100歳以上の男女1名ずつ、区長が訪問し、直接贈呈を行う。		成果指標 指標名(1) 指標説明 指標名(2) 指標説明	敬老会来場率 来場者÷対象者数 祝い品交換率 交換者÷対象者数					
区分		単位	平成28年度 実績	平成29年度 計画 実績		平成30年度 計画 実績 (目標値)	令和元年度 計画	平成30年度 対計画比(%)	
指標	活動指標(1)	1 人	5,171	5,500	5,662	6,000 5,129	6,000	85.5	
	活動指標(2)	2 人	9,205	6,540	6,108	6,430 6,064	6,400	94.3	
	成果指標(1)	3 %	8.5	8.7	9.1	9.3 8.1	9.1	87.1	
	成果指標(2)	4 %	98.8	100	97.9	100 98.2	100	98.2	
総事業費・コスト把握	事業費	5 千円	35,072	35,269	31,842	38,140 34,856	40,102	平成30年度 予算執行率(%) 91.4	
	(内)投資的経費等	6 千円	0	0	0	0 0	0	特記事項	
	(内)委託費	7 千円	10,127	12,268	12,230	13,945 13,588	14,055		
	職員数	常勤職員数	8 人	1.80	1.80	1.80	1.80 1.50	0.70	
		再任用職員数	9 人	0.00	0.00	0.00	0.00 0.30	1.00	
		非常勤職員数	10 人	0.10	0.10	0.10	0.10 0.10	0.10	
	人件費	常勤職員分	11 千円	15,412	15,412	15,464	15,464 12,639	5,898	
		再任用職員分	12 千円	0	0	0	0 1,330	4,434	
		非常勤職員分	13 千円	297	297	294	294 309	309	
	総事業費 (5+11+12+13)	14 千円	50,781	50,978	47,600	53,898 49,134	50,743		
	単位当たりコスト (14-6)÷1	15 円	9,820	9,269	8,407	8,983 9,580	8,457		
	財源	受益者負担分	16 千円	0	0	0	0 0	0	
		国からの補助金等	17 千円	0	0	0	0 0	0	
		都からの補助金等	18 千円	6,784	7,581	7,434	8,732 8,731	8,785	
その他の補助金等		19 千円	0	0	0	0 0	0		
特定財源計 (16+17+18+19)		20 千円	6,784	7,581	7,434	8,732 8,731	8,785		
差引：一般財源 (14-20)		21 千円	43,997	43,397	40,166	45,166 40,403	41,958		
受益者負担比率 (16÷14)	22 %	0.0	0.0	0.0	0.0 0.0	0.0			

令和元年度杉並区事務事業評価表（2）

				整理番号	176
		内 容	規模	単位	事業費（千円）
平成30年度の事業実施状況	(1) 主な取組	敬老会開催	5,129	人	16,163
		敬老祝い品贈呈	6,064	人	18,693
		その他（ ）			
	(2) 事業実績	<p>75歳以上の高齢者を対象に、第69回杉並区敬老会を9月4・5・6日の3日間全9回開催しました。内容は式典と演奏会（日本フィルハーモニー交響楽団による弦楽アンサンブルとソプラノ歌唱）を行いました。</p> <p>敬老祝い品は81歳と90歳の方にカタログギフトによる祝い品を贈り、100歳以上の方にカタログギフト、肌着セット、音声拡聴器から1点選択していただく形で祝い品を贈りました。さらに、在宅で生活している100歳以上の女性1名を区長が訪問し長寿を祝い、花束の贈呈をしました。</p>			
事業環境の変化と方向性	事業開始当初から現在までの変化	<p>対象である75歳以上人口はこの事業が開始された昭和27年の約3,000人と現在の63,491人（平成30年6月15日現在）を比較すると約21倍になります。また、高齢者の嗜好も時代とともに変化し、多様化しています。</p> <p>祝い品については、100歳以上の長寿祝いが平成2年度から、81歳の祝い品が平成12年度から、75歳の祝い品が平成15年度から（平成28年度で終了）、90歳の祝い品が平成29年度から開始され、現在に至っています。</p>			
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	<p>杉並区敬老会は、かつては、演歌歌手のショーを中心に開催してきましたが、ここ数年、参加者からはクラシック、ポップス、演芸など多様なジャンルへの要望も寄せられるようになってきました。</p> <p>敬老祝い品のカタログギフトは、個人の嗜好に合わせて商品を選択できるので、対象者になるのを楽しみにしているという声が多数あります。100歳以上の祝い品に関しては、毎年お祝いしてもらえることに、感謝の言葉が多く寄せられています。</p>			
	今後（3～5年）の予測と方向性	<p>敬老会は対象者増を見込み、平成30年度より前年から1回増の全9回公演で行いました。</p> <p>また、令和元年度よりスポンサー企業を募り、広告収入を得ることになります。</p> <p>団塊の世代が75歳を迎え高齢者人口のさらなる増加を見越し、敬老会事業・祝い品事業全体の見直しも視野に入れながら、従来通りの事業形態ではない選択肢についても検討します。</p>			
	評価と課題	<p>平成30年度の敬老会は、前年に引き続き再演希望の多かった日本フィル交響楽団による弦楽アンサンブルとソプラノ歌唱の演奏会を実施しました。また、高齢者の安全を考慮するとともに、他課の応援要員削減のため、事業企画とあわせて設営及び案内・誘導等を業務委託することで、事故なく円滑に実施できました。今後、さらに対象者が増えることから、民間事業者の協力を得ながら、敬老会の運営方法について検討します。</p> <p>敬老祝い品（81歳・90歳）の内容については、交換率もよく好評です。区民の方からの意見を反映し、カタログ選定の際には、寄付商品が掲載されているものを指定しています。</p>			
翌年度の方針	翌年度予算の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持		
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）		
	翌年度予算の方向性の理由・内容	<p>敬老会は対象者増を見込み、平成30年度より前年から1回増の全9回公演で行いました。さらに安全面に配慮して業務を委託（平成29年度から）しています。</p> <p>また、令和元年度からスポンサー企業を募り広告収入を得ることになります。</p> <p>団塊の世代が75歳を迎え、高齢者人口のさらなる増加を見越し、敬老会事業・祝い品事業全体の見直しも視野に入れながら、従来通りの事業形態ではない選択肢についても検討します。</p>			

令和元年度杉並区事務事業評価表(1)

(00165)

事務事業名称 長寿応援ポイント事業			款 04	項 01	目 02	事業 036	整理番号 177			
現担当課名 高齢者施策課		係名 長寿応援ポイント担当係			連絡先電話番号 1166	昨年度整理番号 179				
上位施策No・施策名 13 高齢者の社会参加の支援						予算事業区分 既定事業				
事業開始 平成21年度		実行計画事業 目標 04 施策 13		計画事業 02						
平成30年度担当課名 高齢者施策課						事業評価区分 一般				
対象		地域貢献活動、健康増進活動等は60歳以上の区民 いきがい活動は、75歳以上の区民		根拠法令等 (1) (2)	杉並区長寿応援ポイント事業実施要綱 杉並区長寿応援ポイント事業運営懇談会開催要綱					
事務事業の概要	事業の目的・目標(対象をどのような状態にしたいのか)			活動指標 指標名(1)	活動登録グループ件数(新規)					
	高齢者の外出を促し、高齢者自身の健康増進やいきがいの向上を図る。さらにその活動が社会参加につながり、地域包括ケアの取組の中で、地域の人々相互の「支えあい」が進展することを目指す。			指標説明	ポイント交換者数					
	活動内容(事務事業の内容、やり方、手段)			指標名(2)						
	区が認定した「地域貢献活動」等への高齢者の参加に対してポイントを配布する。貯めたポイントは、地域貢献活動団体に助成する目的で設置した長寿応援ファンドや各種基金等への寄付及び区内共通商品の交換等に充てる。 業務は民間事業者への委託により行う。			成果指標 指標名(1)	65歳以上の高齢者でいきがいを感じている人の割合 区民意向調査による					
			指標説明							
			指標名(2)							
			指標説明							
区分	単位	平成28年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度	平成30年度 対計画比(%)		
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績			計画	
指標	活動指標(1)	1 件	96	100	80	100	87	100	87.0	
	活動指標(2)	2 人	7,644	9,500	7,785	9,500	8,068	9,500	84.9	
	成果指標(1)	3 %	79.0	87	76.9	90	75.5	90	83.9	
	成果指標(2)	4								
総事業費・コスト把握	事業費	5 千円	91,643	99,723	99,715	98,532	97,213	97,799	平成30年度 予算執行率(%) 98.7	
	(内)投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	特記事項	
	(内)委託費	7 千円	35,819	41,114	41,112	38,972	37,942	38,924		
	職員数	常勤職員数	8 人	1.40	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	
		再任用職員数	9 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		非常勤職員数	10 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	人件費	常勤職員分	11 千円	11,987	12,843	12,887	12,887	12,639	12,639	
		再任用職員分	12 千円	0	0	0	0	0	0	
		非常勤職員分	13 千円	0	0	0	0	0	0	
	総事業費 (5+11+12+13)	14 千円	103,630	112,566	112,602	111,419	109,852	110,438		
	単位当たりコスト (14-6)÷1	15 円	1,079,479	1,125,660	1,407,525	1,114,190	1,262,667	1,104,380		
	財源	受益者負担分	16 千円	0	0	0	0	0	0	
		国からの補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0	
		都からの補助金等	18 千円	20,121	19,400	22,317	21,283	21,268	20,901	
その他の補助金等		19 千円	0	0	0	0	0	0		
特定財源計 (16+17+18+19)		20 千円	20,121	19,400	22,317	21,283	21,268	20,901		
差引:一般財源 (14-20)		21 千円	83,509	93,166	90,285	90,136	88,584	89,537		
受益者負担比率 (16÷14)	22 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

令和元年度杉並区事務事業評価表（2）

		整理番号	177		
平成30年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		長寿応援ポイント事業業務委託、ゆうゆう館での受付業務委託			
		長寿応援ポイント事業運営懇談会及び部会の開催	11	回	276
		事業紹介冊子、ポイントシール印刷ほか			2,058
		電子複写機賃貸借、保守、消耗品購入			247
		その他(商品券の購入ほか)			56,695
平成30年度の事業実施状況	(2) 事業実績	<p>平成30年度末の登録活動数は1483件で、平成29年度末の1474件から0.6%の増加となりました。長寿応援ファンドを活用し、高齢者の健康づくりや、誰もが住みやすいまちづくりを進める活動として、5団体に助成を行いました。</p>			
事業環境の変化と方向性	事業開始当初から現在までの変化	<p>事業開始年度である平成21年10月の区内65歳以上人口は103,024人でしたが、平成31年4月現在では119,327人に増加しています。 平成30年度区民意向調査によれば、65歳以上でボランティア活動を行っている高齢者は13.9%、趣味のサークルやクラブ活動、社会貢献活動を行っている高齢者は69.9%、生活にいきがいを感じている高齢者は75.5%となっています。</p>			
	事業に対する意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	<p>ポイントが配られることで「参加意欲が向上する」「友人が増えた」という声が届いています。また、ポイントの寄付に対しても、「社会の役に立てることがうれしい」と概ね肯定的に受け止められています。しかし、その一方で、ポイント獲得を前提としたボランティア活動に対する疑問や、事業の効果が見えにくいという意見も寄せられています。 また、長寿応援ファンド助成を受けた活動団体からは、「事業実施の環境が整ったことによって、充実した活動を行うことができた」「介護予防が必要な方の掘り起こしができた」「地域活動の周知に役立った」との評価を得ています。</p>			
	今後(3~5年)の予測と方向性	<p>人口の高齢化は、今後更に進展していくことが見込まれています。介護予防の観点からも、高齢者が地域活動に参加する中で共に支え合い、いきいきとした高齢期を過ごすことができる社会を目指す取り組みが求められます。</p>			
評価と課題		<p>長寿応援ポイント事業登録活動数は、平成21年度の事業開始以来増加を続けており、平成30年度末には、1483件(新規87件)となりました。しかし、様々な地域活動が行われる一方で、参加者の固定や事業の効果が見えにくい等の課題があります。 また、地域に貢献する公益的な活動や、様々な世代を支援する活動に対して助成を行う長寿応援ファンド助成については、申請数、助成活動数ともに年々減少しています。 今後の更なる人口の高齢化を見据え、介護予防の観点からも、事業の見直し・検討が課題となっています。</p>			
翌年度の方針	翌年度予算の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	現状維持		
	II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し(改善)・対象の見直し			
翌年度の方針	翌年度予算の方向性の理由・内容	<p>登録活動数の増加に伴い、引き続き事業参加者数の増加が見込まれますが、予算は現状維持とし、今後の方向性を検討した上で、事業を見直します。また、長寿応援ファンドのあり方についても、検討・見直しを行います。</p>			

令和元年度杉並区事務事業評価表(1)

(00225)

事務事業名称 高齢者活動支援センターの維持管理			款 04	項 01	目 06	事業 012	整理番号 237					
現担当課名 高齢者施策課		係名 施設担当係		連絡先電話番号 1153		昨年度整理番号 240						
上位施策No・施策名 13 高齢者の社会参加の支援						予算事業区分 既定事業						
事業開始 昭和58年度												
平成30年度担当課名 高齢者施策課		事業評価区分 一般										
対象 高齢者活動支援センター、高齢者ゲートボール場		根拠法令等 (1) 老人福祉法第4条、第5条の3、第15条、第20条の7 (2) 杉並区立高齢者活動支援センター及びゆうゆう館条例										
事務事業の概要	事業の目的・目標(対象をどのような状態にしたいのか) 高齢者活動支援センターを運営し、高齢者の生涯現役の地域拠点としての社会参加の拡充を図る。 高齢者の自主的団体活動を支援し、新たな生きがい作りや仲間作りを促進し、元気高齢者の増加に寄与する。 スポーツ活動(ゲートボール)を通して高齢者の社会参加の機会を拡充し、元気高齢者の増加を図る。		活動指標 指標名(1) 高齢者活動支援センター登録団体数 指標説明 指標名(2) 団体利用回数									
	活動内容(事務事業の内容、やり方、手段) ○60歳以上の区民の福祉の増進を図るため、各種相談や健康増進、介護予防、教養の向上、レクリエーションに関するもののほか、生きがい活動の支援や多世代との交流を実施するために設置された高齢者活動支援センターの維持管理を指定管理者により行う。 高齢者ゲートボール場を管理・運営する。		成果指標 指標名(1) 高齢者活動支援センター利用率 指標説明 指標名(2) ゲートボール場利用率 指標説明 利用回数÷利用可能枠数									
	区分		単位	平成28年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度	平成30年度		
				実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画	対計画比(%)		
指標	活動指標(1)		1	団体	77	80	85	80	82	80	102.5	
	活動指標(2)		2	回	2,507	2,600	2,739	2,800	2,833	2,800	101.2	
	成果指標(1)		3	%	82.1	85.0	70.7	85.0	68.2	85.0	80.2	
	成果指標(2)		4	%	56.4	60.0	50.8	60.0	51.1	60.0	85.2	
総事業費・コスト把握	事業費		5	千円	70,932	72,601	72,593	65,005	64,965	65,665	平成30年度予算執行率(%) 99.9	
	(内)投資的経費等		6	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項 隣接する清掃工場の改修のため、ガスボイラーで対応していた熱源供給が平成29年10月に再開し光熱水費が下がったため。	
	(内)委託費		7	千円	70,779	72,157	72,152	64,902	64,881	65,561		
	職員数	常勤職員数		8	人	0.45	0.32	0.38	0.40	0.48		0.40
		再任用職員数		9	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00
		非常勤職員数		10	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00
	人件費	常勤職員分		11	千円	3,853	2,740	3,265	3,436	4,044		3,370
		再任用職員分		12	千円	0	0	0	0	0		0
		非常勤職員分		13	千円	0	0	0	0	0		0
	総事業費(5+11+12+13)		14	千円	74,785	75,341	75,858	68,441	69,009	69,035		
	単位当たりコスト((14-6)÷1)		15	円	971,234	941,763	892,447	855,513	841,573	862,938		
	財源	受益者負担分		16	千円	0	0	0	0	0		0
		国からの補助金等		17	千円	0	0	0	0	0		0
		都からの補助金等		18	千円	0	0	0	0	0		0
その他の補助金等		19	千円	0	0	0	0	0	0			
特定財源計(16+17+18+19)		20	千円	0	0	0	0	0	0			
差引:一般財源(14-20)		21	千円	74,785	75,341	75,858	68,441	69,009	69,035			
受益者負担比率(16÷14)		22	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

令和元年度杉並区事務事業評価表（２）

整理番号 237

		内 容	規模	単位	事業費（千円）
平成30年度の事業実施状況	(1) 主な取組	運営管理（指定管理者）			64,577
		建物管理委託			32
		賃借料の支出			54
		ゲートボール場清掃等委託			272
		その他（光熱水費、消耗品購入費など）			30
(2) 事業実績	<p>「杉並区立高井戸地域区民センター、杉並区立高齢者活動支援センター及び杉並区高井戸温水プールの管理運営に関する基本協定書」に基づく指定管理料の算定基礎ともなっている、杉並区清掃工場からの熱源供給停止期間が規定の30日間を大幅に超過したことにより、指定管理料の追加支出を行いました。</p> <p>高齢者ゲートボール場の利用者が快適に使用できるように便所清掃や樹木剪定等ゲートボール場の維持管理を行いました。</p>				
事業環境の変化と方向性	事業開始当初から現在までの変化	<p>全国的にゲートボール人口は減少傾向にあり、高齢者ゲートボール場登録団体数は平成12年度の29団体をピークに減少し、平成29年度は15団体となっています。</p> <p>高齢者活動支援センターは昭和58年の開設ですが、隣接する杉並清掃工場の建替工事に伴い、大規模改修工事を実施し、改修後の平成24年5月からは運営をより効果的かつ効率的に行い、利用者がより一層利用しやすい施設とするため指定管理者制度を導入しました。また、平成29年度には、はつらつルームを保育室に転用しています。</p>			
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	<p>高齢者活動支援センターを利用する高齢者団体から行政が多目的室・講座室を使用する頻度が高いことに対する意見が寄せられました。ほかには、趣味の部屋にあるビリヤードを使用するにあたり初めての利用者には使用しづらい、治療器コーナーにあるマッサージ機を使用するにあたり利用者のモラルが問われる等の声もありました。</p> <p>高齢者ゲートボール場を利用する団体からは、グラウンド整備及び樹木剪定等に対する要望が寄せられました。</p>			
	今後（3～5年）の予測と方向性	<p>高齢者活動支援センターの稼働率は、引き続き高水準を保つと思われれます。</p> <p>高齢者ゲートボール場登録団体数は、ゲートボール人口の増加要因が当面見当たらないことから、今後もゆるやかな減少傾向は継続すると考えられます。</p>			
評価と課題	<p>講座室の稼働状況は平均68%、特に多目的室は90%を超える状況で稼働しています。高齢者団体の使用が半数以上を占め高齢者のいきがい活動等の支援に寄与しています。また、運営は指定管理者が行っており、区と指定管理者との役割分担も明確化しています。指定管理者が実施する「地域懇談会」は、地域の関係者と意見交換を行うなど施設の円滑な運営に役立っています。今後は、地域活動の拠点となるよう、指定管理者が行う事業での人材の発掘、高齢者団体の活動及び社会参加支援等の施策を探るため、指定管理者と区の連携が益々重要になってきます。</p> <p>高齢者ゲートボール場の管理については、利用団体が主体的に管理する範囲もあるため、区と利用団体との役割分担を明確化していきます。</p>				
翌年度の方針	翌年度予算の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持		
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）・実施主体の見直し		
翌年度の方針	翌年度予算の方向性の理由・内容	<p>高齢者活動支援センターでは、利用者の意見に基づく利用方法の改善や地域活動の拠点として社会参加の充実を図る施策等、指定管理者と引き続き協議・検討を行っていきます。</p> <p>高齢者ゲートボール場の使用については、一部の利用者に限られ、また、その利用者においても減少傾向にありますが、予算は現状維持としながら、今後のあり方について検討を進めます。</p>			

令和元年度杉並区事務事業評価表（2）

整理番号 238

平成30年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
		光熱水費	32	館	34,004
		施設保守管理委託	32	館	22,665
		消耗品購入、修繕、家屋等修繕	32	館	7,997
		物品・機器リース	32	館	861
	その他（電話料金、物品保守委託、負担金の支出、洋便化工事ほか）				10,266
(2) 事業実績	<p>ゆうゆう館の利用者が安全かつ快適に利用ができるように、施設修繕、施設保守管理委託などを行うとともに、老朽化した物品の買い替え及び不足している物品の購入を行いました。 なお、平成30年度中に施工した、4館5基の和式トイレの洋式化工事は、東京都による「ユニバーサルデザインのまちづくり緊急推進事業補助金」を活用しました。</p>				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	
	今後の予測	
評価と課題	<p>ゆうゆう館の施設・設備の維持管理を行うことで、安全かつ快適な施設の利用について貢献できました。築40年以上のゆうゆう館が半数を占めていることから、老朽化に伴い必要な修繕が増えてきています。今後も杉並区立施設再編整備計画の進捗状況も確認しながら、優先して行うべき建物並びに設備の小修繕を精査し、安全で利用しやすい環境を維持していきます。</p>	

中長期的な改善・見直しの方向	今後の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	
		II 事業の改善の方向性	
	今後の進め方		